

文京区アカデミー推進計画策定協議会

第2回 生涯学習分科会 次第

日時：平成22年5月18日（火）18:30～20:30

於：文京シビックセンター21階 2101会議室

- 1 開会
- 2 はじめに
- 3 文京区の特徴や課題の再検討
- 4 解決への方向性の検討
- 5 閉会

《配布資料》

【資料生涯－第4号】第2回分科会の進め方について

【資料生涯－第5号】文京区アカデミー推進計画策定協議会 第1回生涯学習分科会
【作業結果書き起こし資料】

【資料生涯－第6号】文京区アカデミー推進計画策定協議会 第1回生涯学習分科会
【作業結果再整理資料】

第2回分科会の進め方について

I 第2回分科会のテーマ

- (1) アカデミー推進計画に関わる文京区の特徴や課題を確認・再検討する。
- (2) アカデミー推進計画の、分野別計画において取り組んでいく方向性を検討する。

II 本日のプログラム

時間	内容	進行役
18時30分～18時40分	1. 開会・挨拶 2. はじめに (1) 本日のプログラムの説明 (2) 質疑応答	事務局
18時40分～19時10分	3. 文京区の特徴や課題の再検討	座長
19時10分～20時30分	4. 解決への方向性の検討 (途中、休憩10分含む)	座長
20時30分	5. 挨拶・閉会	事務局

Ⅲ 文京区の特徴や課題の再検討及び解決への方向性の検討

分科会では、参加メンバーの主体的な話し合いを促すため、座長の司会進行のもと、以下のような流れで検討を行います。

STEP 1 文京区の特徴や課題について、資料説明を行います【時間の目安：10分以内】

- 第1回分科会での検討内容をまとめた資料第5号について、事務局より説明を行います。

STEP 2 文京区の特徴や課題について確認・再検討を行います【時間の目安：30分以内】

- 文京区の特徴や課題について、追加すべき点等を確認・再検討します。意見は、事務局でポストイットに書き取り、模造紙上にグループ分けを行います。

STEP 3 課題に対する解決への方向性について、1人ひとりの考えをカードに書き出します【目安の時間：10分以内】

- STEP 2で検討した課題について、解決するための方向性を書き出します。

STEP 4 課題に対する解決への方向性について検討します【時間の目安：50分以内】

- 書き出したカードを、模造紙上にグループ化していきます。
- 座長の進行のもと、適宜各委員の意見を確認しながら、追加したい内容やグループ分けに誤りがないかなどを、全員で話し合い、確認します。

STEP 4 議論の内容のまとめを行い、分野別計画に盛り込む方向性を確認します【時間の目安：10分以内】

- 座長が本日の検討の成果を総括し、分野別計画に盛り込む方向性を参加メンバー全員で確認、考えを共有します。

Ⅳ 第3回分科会の検討テーマ

- ◆ 第3回分科会は、本日お出しいただいたご意見を参考に、成文化した各分野別計画の目標・方針の検討を行います。

以上

文京区アカデミー推進計画策定協議会 第1回生涯学習分科会【作業結果書き起こし資料】

日時：平成22年4月27日

午後18:30～20:30

場所：文京シビックセンター21階 2010会議室

1 「課題の洗い出し」作業結果

第1回生涯学習分科会では、文京区の生涯学習に関する特徴や課題について、委員の方から意見を頂き、さらに付箋紙と模造紙を使って整理を行いました。

第1回分科会での作業結果を表にまとめたものが、下記の表1、2になります。

表1：「生涯学習に関する特徴や課題」について出された意見

分類見出し	委員意見
どのような区民がいるか	区民にはコスモポリタンが多く、地域へのこだわりが薄い
	区民の多くは豊かでおおらかで人がいい
	学び人が多い
	大学が多く、学生が多い
	大学生の参加率がいまいち
	有能な団塊世代がいる
	団塊世代を活用できていない
	時間や経済的に余裕のある方でないと参加できないのではないかな
	区民の文化教育水準が高い
	ITについてこれない、ついて来ない区民が増えている
	高所得高齢者が他区より多い
	学習メニューの中身
文京学	
大学プロデュースの講座と区民プロデュースの講座のギャップが大きい	
生涯学習のフレームがないまま量だけ増やしている感じ	
生涯学習講座の量と受講者数の増加だけ言われて質の問題が話題にされていない	
趣味の世界での学習になっている次の活動へ展開できていない	
講座の質が問われている	
メニュー開発できていない	
民間CS（カルチャースクール）の意外な苦戦	
地域文化に根付いた生涯学習メニューがある	
生涯学習メニューが充実している	
世代間交流のできる講座	
子どものための講座がない	
講座設定が啓蒙的から発展的学習へとバランスよく構成（設定）されているか	
学習の場が高齢者（女性が多い）になっている	
メニュー不足	
ステレオタイプな発想	
コミュニティビジネス等の発想がない。そのため、学習メニューが少ない	
場所	区の学習の場所が多くある
	生涯学習を推進するための図書館の開放が十分でない
	施設が足りない

分類見出し	委員意見
	遊休施設がある
	組織の縦割り化により施設が複雑多岐
	生涯学習館なるものがない
	施設不足で自主講座開催希望も叶わず
	施設を使いたいときに使えない
	サークルが活性化しないために、人材育成のセカンドステップがない
	休眠サークルが多い
計画推進上の課題	「協働」という概念が不統一のまま一人歩きしている
連携・ネットワーク	大学との相互協力の実態が見えない (PR 不足か)
	区立の図書館と大学図書館との相互交流がない
	区と大学の連携のあり方が不十分
	大学の特色をもっと PR (生かしたい) (大学の活躍の場拡大)
情報提供	ホームページが見えにくい、分かりにくい
	「こらびっと」の活用
	多くのメニューがあるが、私はほとんど知らなかった
相談	学習相談窓口の設置
	生涯学習の区民へのサービス窓口体系 (サービス提供者側の区分と役割目標) の設置
	学び方、教わったものを生活にどう生かしていくか
人材活用	人材の活用。生涯学習司、インタープリターの取得後の仕事ははっきりしていない
	未来の文京のための若者へのアプローチが必要
	学習成果の地域への還元策
	講座や資格等が、地域の中にどうフィードバックされているのか分からない
	サラリーマンが区の生涯学習プログラムに参加できるか一考察が必要

表 2 : 「課題に対する解決の方向性」の検討に向けた議論で出された意見

分類見出し	委員意見
生涯学習の目的	生涯学習をする目的、学んだことをどう活かすか
	良き区民になること (行政に対して批判の目を持つこと)
	人間が固くならないようにするため
	人は人と出会って人になる
	人との交流を通して、刺激や好奇心を得ることができる
	人との交流を通して、地域とのかかわりができる
	住民同士が相談や情報交換ができるように行政が支援する
	良く生きる
	感性 (感度) の高い人をつくる
	働いている人は、職業につながることを学ぶ
	生涯学習を通じた自己実現
	生涯学習 = 生きがい
生涯学習に参加しない人をどのようにカバーしていけば良いか	魅力的な生涯学習メニューを用意する
	専門的な知識の再教育
	社会人向けの大学での講座を用意する
	経験者の話を聞くことのできる場が必要 (町会レベルなど)
	人材バンク制度を用意する。(人材活用と披露の場)
e ラーニング等ハイテク機器の活用	

以上

文京区アカデミー推進計画策定協議会 第1回生涯学習分科会【作業結果再整理資料】

日時：平成22年4月27日

午後18:30～20:30

場所：文京シビックセンター21階 2010会議室

1 「課題の洗い出し」作業結果

第1回生涯学習分科会では、文京区の生涯学習に関する特徴や課題について、委員の方から意見を頂き、さらに付箋紙と模造紙を使って整理を行いました。

第1回分科会での作業結果再度整理し、表にまとめたものが、下記の表1、2になります。

表1：「生涯学習に関する特徴や課題」について出された意見の再整理結果

分類見出し	委員意見
区民の特徴	区民にはコスモポリタンが多く、地域へのこだわりが薄い
	区民の多くは豊かでおおらかで人がいい
	学び人が多い
	大学が多く、学生が多い
	大学生の参加率がいまいち
	有能な団塊世代がいる
	区民の文化教育水準が高い
	ITについてこれない、ついて来ない区民が増えている
	高所得高齢者が他区より多い
文京区ならではの生涯学習の追及	文京区ならではの生涯学習とは 文京学
全体方針の必要性	大学プロデュースの講座と区民プロデュースの講座のギャップが大きい
	生涯学習のフレームがないまま量だけ増やしている感じ
	コミュニティビジネス等の発想がない。そのため、学習メニューが少ない
各種講座の質の向上	生涯学習講座の量と受講者数の増加だけ言われて質の問題が話題にされていない
	講座の質が問われている
	民間CS（カルチャースクール）の意外な苦戦
学習メニューの不足	メニュー開発できていない
	メニュー不足
	ステレオタイプな発想
	子どものための講座がない
充実した学習メニュー	地域文化に根付いた生涯学習メニューがある
	生涯学習メニューが充実している
発展的な学習の必要性	趣味の世界での学習になっている。次の活動へ展開できていない
	講座設定が啓蒙的から発展的な学習へとバランスよく構成（設定）されているか
幅広い世代の参加促進の必要性	世代間交流のできる講座
	学習の場が高齢者（女性が多い）になっている
充実した学習場所	区の学習の場所が多くある
活動場所の不足	施設が足りない
	組織の縦割り化により施設が複雑多岐
	生涯学習館なるものがない
	施設不足で自主講座開催希望も叶わず
	遊休施設がある

分類見出し	委員意見
施設を自由に使えない	施設を使いたいときに使えない
図書館開放の不十分さ	生涯学習を推進するための図書館の開放が十分でない
サークル活動活性化の必要性	サークルが活性化しないために、人材育成のセカンドステップがない 休眠サークルが多い
連携・ネットワーク促進の必要性	大学との相互協力の実態が見えない (PR 不足か)
	区立の図書館と大学図書館との相互交流がない
	区と大学の連携のあり方が不十分
	大学の特色をもっと PR (生かしたい) (大学の活躍の場拡大)
分かりやすい情報提供の必要性	ホームページが見えにくい、分かりにくい
	「こらびっと」の活用
	多くのメニューがあるが、私はほとんど知らなかった
相談窓口の必要性	学習相談窓口の設置
	生涯学習の区民へのサービス窓口体系 (サービス提供者側の区分と役割目標) の設置
人材活用促進の必要性	人材の活用。生涯学習司、インタープリターの取得後の仕事ははっきりしていない
	団塊世代を活用できていない
学習成果を生かす工夫の必要性	学習成果の地域への還元策
	講座や資格等が、地域の中にどうフィードバックされているのか分からない
	学び方、教わったものを生活にどう生かしていくか
人材育成の必要性	未来の文京のための若者へのアプローチが必要
参加しやすいプログラムの必要性	サラリーマンが区の生涯学習プログラムに参加できるかー考察が必要
	時間や経済的に余裕のある方でないと参加できないのではないか
計画推進上の課題	「協働」という概念が不統一のまま一人歩きしている

表2：「課題に対する解決の方向性」の検討に向けた議論で出された意見【再整理なし】

分類見出し	委員意見
生涯学習の目的	生涯学習をする目的、学んだことをどう活かすか
	良き区民になること (行政に対して批判の目を持つこと)
	人間が固くならないようにするため
	人は人と出会って人になる
	人との交流を通して、刺激や好奇心を得ることができる
	人との交流を通して、地域とのかかわりができる
	住民同士が相談や情報交換ができるように行政が支援する
	良く生きる
	感性 (感度) の高い人をつくる
	働いている人は、職業につながることを学ぶ
	生涯学習を通じた自己実現
生涯学習に参加しない人をどのようにカバーしていけば良いか	生涯学習＝生きがい
	魅力的な生涯学習メニューを用意する
	専門的な知識の再教育
	社会人向けの大学での講座を用意する
	経験者の話を聞くことのできる場が必要 (町会レベルなど)
人材バンク制度を用意する。(人材活用と披露の場)	
eラーニング等ハイテク機器の活用	

以上